

# 研究協力をお願い

昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究への協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

神経発達症における尿失禁の特性と治療効果の検討

## 1. 研究の対象および研究対象期間

2017年1月から2026年12月までに昭和大学藤が丘病院を夜尿症または昼間尿失禁で受診した5歳以上で、初診前に神経発達症と診断されているお子さん。

## 2. 研究目的・方法

### ・研究目的

神経発達症(自閉症スペクトラム、注意欠如・多動症、限局性学習障害、知的能力障害)のお子さんでは同年代の定型発達のお子さんと比較して夜尿症や昼間尿失禁の割合が高く、かつ難治性と報告されています。尿失禁の持続は本人や保護者のストレスとなり生活の質の低下につながるため、有効な治療法の早期選択が望まれますが、各神経発達症のお子さんにおける尿失禁の特性や各治療法(生活指導、抗利ホルモン薬、抗コリン薬等の薬物療法、アラーム療法)の効果の差については十分解明されていません。

そこで今回、神経発達症別の尿失禁の特性と各治療法の効果を解析することで、それぞれの発達特性や尿失禁特性にあった治療法を解明していきたいと考えています。

### ・方法

夜尿症、昼間尿失禁の通常診療として行った問診、質問票を用いた下部尿路症状、神経発達特性の評価、血液・尿検査、尿流測定の結果といった既存の情報を収集し統計学的に解析します。

## 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2027年3月31日まで。

## 4. 研究に用いる試料・情報の種類

・夜尿症、昼間尿失禁の通常診療で初診時に行う問診、質問票を用いた下部尿路症状、神経発達特性の評価、検査の下記項目。

